

# 令和元年度地域包括ケアに携わる多職種合同研修会

## 第2回 ケアカフェきたそらち 開催結果・評価

項目	内 容
1 目 的	療養が必要な地域住民を支える地域支援関係者と医療関係者が顔の見える関係ができ、情報交換できるようになる
2 期待する効果・成果	○地域支援関係者、医療関係者等の多職種が情報交換・共有する関係性と環境が構築される ○多職種の交流の場を運営する組織ができる
3 日 時	令和元年9月20日(金)18:00～20:00
4 場 所	ラ・カンパニューホテル深川 2階青雲の間
5 内 容	(1)話題提供 「オーラルフレイル」 話題提供者 北空知歯科医会副会長 中神宏司氏 (2)グループワーク テーマ「お口の話」 カフェマスター 沼田町地域包括支援センター介護支援専門員 礪 宏一氏 カフェ・サブマスター 東ヶ丘病院精神科認定看護師 疋田 健氏
6 出席者	看護職16名、介護支援専門員20名、MSW・SW・相談員5名、薬剤師4名 保健師9名、リハビリ職6名、ヘルパー9名、事務職4名、医師2名、歯科医師3名 管理栄養士5名、歯科衛生士4名、その他4名 <u>合計91名</u>
7 結 果	(1)話題提供内容 ○フレイルの特徴 健康と要介護の中間の状態、フレイルは「虚弱」の状態。早めに気づき、適切な介入によって、健康な状態に戻ることができる。小さな変化を見逃さないこと。 ○ささいな口の衰えが全身に大きな影響を与える 口の不具合を放置→かめない・むせる・こぼす→食べやすいものを提供→やわらかいものを食べる→咀嚼能力の低下を繰り返すことで、口腔機能が低下し、要介護状態へ進行。 ○メタボ予防からフレイル予防へ 高齢者は BMI が低いほど、総死亡に対する危険度(オッズ比)は高くなる。中年期は、生活習慣病予防を目的とした塩分・脂肪制限を行うが、高齢者は低栄養・フレイル予防を目的とした適切なエネルギー(高タンパク・高ビタミン D)摂取が大事。 (2)グループワーク ○1グループ4人 21グループ。知らない人同士で着席 ○受付にお菓子を用意し、自由に持って行ってもらった。お菓子の差し入れあり。 ○名札と飲み物は、ほとんどの人が持参。今回はホテルで実施したので、お茶のセルフコーナーがあった。 ○カフェマスターから、ケアカフェの進め方について説明。その後、テーマに基づき自由に話し合いし、模造紙へ各々が自由に記載。 ○1つのチャットを30分。チャット2まで実施し、チャット3で全体共有 ○MVS を2名決定し、プレゼント(口腔ケアグッズ、ケアカフェネーム入りボールペン)を贈呈。

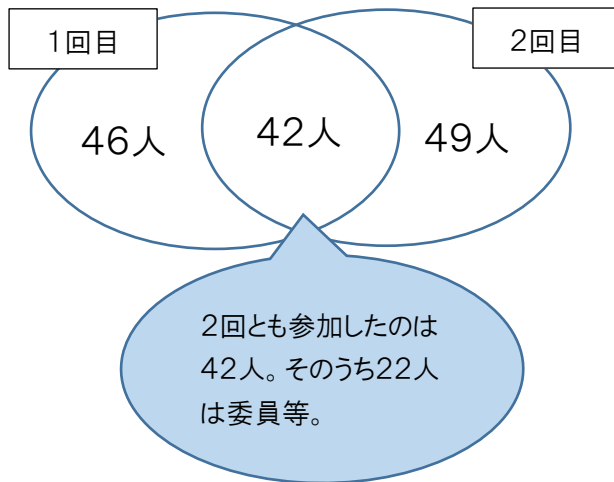
【小部会で振り返り】

○:達成できた △:ほぼ達成・まあまあ良かったが課題あり ×:達成できていない・良くなかった

項目	内 容
8 評 価	<p>○地域の多職種連携の課題に即した企画だったか →「○」</p> <p>多職種と話すことができ、病院・施設だけでは聞くことのできない話ができ、知識を得ることができた。</p> <p>アンケートから、「他の職種の人と話す機会がないので良かった」「名前は知っていても話すのが初めてという人と話せて良かった」「職種が違くと目線が違い、本当に気づかされるのがたくさんあった」等と感想があり、多職種連携を図るための「きっかけ」作りになる企画になっている。</p> <p>○テーマの選定 →「○」</p> <p>どの職種でも意見できる、また興味のある身近なテーマであった。話題提供者のテーマが「オーラルフレイル」であり、前回の「運動」や次回テーマの「食事」にもつながる内容であるところが良かった。</p> <p>○周知方法 →「○」</p> <p>早い段階から周知され、各関係機関へポスター配布も十分に行うことができた。小部会メンバーや運営協力員も各所属や各種会議等での参加の呼びかけを行った。ポスターの絵柄が好評であった。</p> <p>しかし、「ケアカフェ」というワードが、未参加の人にとってイメージしにくく、説明などの工夫が必要と思われる。</p> <p>○会場の状況 →「○」</p> <p>余裕がある空間で、落ち着いて情報交換を持てる場を提供することができた。また、音響・物品・ホテルの対応など特に問題はなかった。懇親会へそのまま移行できる面も良かった。</p>
プロセス	<p>○小部会の打合せ・準備状況 →「○」</p> <p>小部会1回(7/29)、研修会企画担当スタッフ打合せ2回(7/8、9/12)。</p> <p>細部調整を行いながら準備を進めているが、研修回数を重ねることでノウハウができると、打合せ回数や方法に工夫ができると思われる。</p> <p>○小部会のメンバーそれぞれの役割を遂行できたか →「○」</p> <p>マスターとサブマスターは、ケアカフェ成功のために、何度も旭川のケアカフェに参加し勉強をし、研修会の運営に役立てることができた。前回のサブマスターが、今回のマスターを務めることでケアカフェの流れを把握でき、サブマスターとの打合せも十分に行っていたことが、スムーズな運営につながった。また、アンケートから「司会者2人の話の進め方が良かった」との記載があり、高評価だった。</p> <p>小部会メンバーも研修2回目であり、それぞれが役割を把握し、遂行することができていた。</p> <p>○ねらった参加者の参加 →「△」</p> <p>歯科医師3名、歯科衛生士4名、言語聴覚士1名。</p> <p>北空知の歯科医院等に従事する歯科衛生士は46名<sup>※1</sup>であることから、参加率は8.7%で、予想より少ない参加であった。歯科医院の診療終了時間が遅いため、18時からの開始に出席するのが難しい状況もあったと思われる。(参加者は、当日の受付時間を短縮して参加している現状があった)</p> <p>※1 平成30年12月末 歯科衛生士・歯科技工士業務従事者届けより</p>

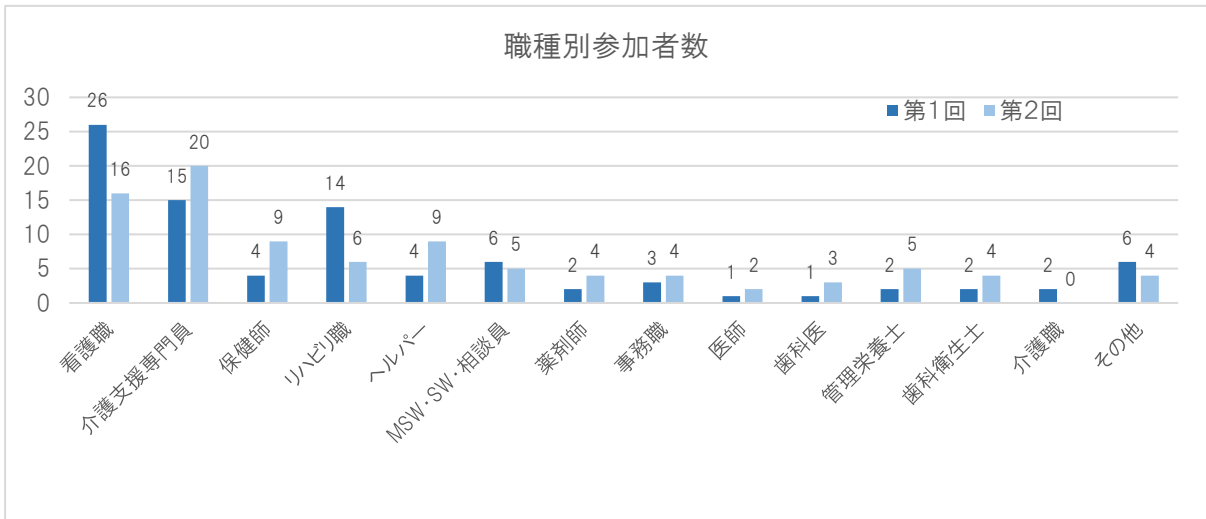
結果	<p>○参加者数 →「○」</p> <p>事前申し込みは 100 名。当日は 91 名だったが、人数的には十分と思われる。深川市内からの参加が圧倒的に多かったが、3 町は 1 回目より参加人数が増えた。</p> <p>2 回とも参加したのは 42 名で、そのうち 20 名が委員等以外の者だった。</p> <p>○職種 →「○」</p> <p>ねらった参加者である歯科衛生士は少なかったが、新たに「がんピアサポーター」や「認知症地域支援推進員」の参加があった。</p> <p>看護職の参加数が減少した背景に、研修会場が深川市立病院からホテルになったことで、参加しづらくなったものと思われる。またリハビリ職の参加数が減少したのは、テーマによるものと思われる。</p> <p>○参加者の満足度 →「○」</p> <p>アンケートから、好印象な意見が多かった。チャットも時間が足りないくらい話が盛り上がり、楽しさ、有意義さ、役立ち共に満足度が高かった。</p> <p>また少数ではあるが、「あまり意味がない」「あまり役に立たない」と感じた人もおり、「”研修”だから、勉強だと思って参加したけれど違った」という声もあったことから、「研修」という名目で内容が「ケアカフェ」というのがわかりにくいかもしれない。</p> <p>「今後も参加したい」と回答したのは 77%で、前回の 70.1%より若干増えた。</p> <p>2 回以上参加している者は、「楽しかった」「有意義であった」「とても役に立つ」と回答する割合が高く、このことが継続参加の要因と思われる。</p> <p>初めて参加した者は、「職場の人に誘われた」という人が多く、そのうち今後の参加意向では、「参加したい」と回答したのが 72.7%であることから、新たな参加者を増やしていくためには、職場での勧誘が有効であると思われる。</p> <p>○交流の場を手伝ってくれる人の確保ができたか →「×」</p> <p>アンケートへの記載はなかったが、交流会において、「名前は書いていないが、協力してもいい」と話していた人がいた。</p>
	まとめ

### 1 参加状況



1回目:88人  
2回目:91人  
実137/延べ179人

### 2 職種別参加数



### 3 市町別参加数

